■漢字の強制学習は無益！

そもそも幼児が、4歳頃までの間に2千もの言葉を理解し覚えるのは、親に教へられて覚えるのでは無くて、幼児がひとりでに周囲から吸収して行ったものである、とは既に述べた所です。

この「親に教へられないで、幼児がひとりでに覚える」といふ事が、結果的に非常に良いのです。もしも学校で行ってゐるやうに、幼児が親から一語一語教へられて、直にこれを使ふやうに求められたとしたら、いかに記憶力の強い幼児でも悲鳴を上げるに違ひありません。

言葉が早く正しく使へるやうになる事を我が子に望まない親はありません。それでも、無理に教へることをせず、ひとりでに覚えるのを持ってゐるから良いのです。漢字の学習もさうしたら良いのです。

私は、1年生に漢字を教へるのに当って、さう考へました。だから、1年生に対して年間6百字程の漢字を提出しましたが、これらの漢字をひとりでに覚えるのに任(まか)せて、決して早く覚えることは求めませんでした。

「1年生で学習しても、卒業するまでの間に覚えてくれたらそれで十分だ」といふ気持で漢字を提出して行ったのですが、結果は、1年間に平均5百字程の漢字が読め、4百字程の漢字が書けるやうになってゐました。大よそ学習漢字の80パーセントが読めるやうになり、その読める漢字の80パーセソトが書けるやうになるものかと思ひました。

毎日よく何字かの漢字を提示して、その漢字の書き取りテストをするから家でよく練習して来なさい、と言ふ教師があります。然し、かういふ学習で覚えた漢字は身に着かないのが普通です。

記憶には「一時的記憶」と「永久的記憶」とあります。ひとりでに覚えた記憶は「永久的記憶」になり、覚えようと努力して覚えた記憶が「一時的記憶」になるやうです。

世界的な数学者として有名な岡潔先生は、「大学時代、試験の前日に1回目を通すだけで全部記憶でき、翌日の試験でそれが完璧に書けた。然し、書き終って教室を出る頃にはその記憶は完全に消失してゐた」と語ってゐらっしゃいますが、この記憶が典型的な「一時的記憶」です。

「一時的記憶」は目的を有ってゐるのが普通です。岡先生の例で言ひますと、「明日の試験」です。一時的記憶は、目的を果せば必要が無い記憶ですから、岡先生のやうに早く忘れる人ほど「頭の働きが良い」といふ事になります。

だから、試験の為に覚えた記憶は、晩(おそ)かれ早かれ忘れてしまふのが

普通です。学校で学習した知識が頭に残ってゐる人が少ないのは試験の為に覚えたものが多いからです。もしも試験の為に覚えた知識が何十年も残ってゐるやうでしたら、それは余程「頭の働きが悪い」人といふ事になります。

　さういふ理由で、テストの為の漢字練習は無益ですから、ぜひ課さないで下さい。その代り、先生がどしどしと多くの漢字を使って見せ、それを子供たちがひとりでに覚えるのに任せるのです。